



新潟 Kubota 大豆研究会通信

<NO.18>

㈱新潟 Kubota
ソリューション営業部

平成25年6月18日

●第1回現地研修会が開催されました。

巻農業普及指導センター様、関連メーカー様等にご協力頂き、6月6日第1回現地研修会を開催しました。お忙しい中お客様、関係者合わせて総計90名の方々にご参加いただきました。大変ありがとうございました。

基盤整備が5月31日に終わり、引き渡しの後、私たちソリューション営業部のスタッフは、溝掘機による周囲明渠、ハーフソイラによる排水対策、スタブルカルチによる粗耕起、バーチカルハローによる表層砕土鎮圧、パラソイラによる無反転全層破碎とフル稼働で作業を行い、6日の播種の日を無事に迎えました。引き渡し後は晴れの日が続いてくれた為、作業が延期になることなく順調に進み本当に良かったです。

研修会ではアップカットロータリによる耕耘同時畝立播種をメインに、ハイクリブームによる除草剤散布、ツインモアーによる草刈作業を見て頂きました。その他にも多数の作業機を展示致しました。

中耕培土同時除草剤散布をメインとした第2回現地研修会は来月の7月3日(水)に巻農業普及指導センター様主催で開催する予定です。第2回現地研修会も多数のご参加お待ちしております。



“新潟 Kubota 実証圃の見所をチェック”

土づくり実証区

大豆の作業時期は天候不順でスピードが求められることからなるべく作業を減らすことが必要です。以上のことから必要最低限の作業区(以下、簡易土づくり区)と土づくりフルコース区を設けて生育の比較をします。また、今回の圃場につきましては暗渠施工はしてありません。

土づくりフルコース区 (作土深16cm)



ハーフソイラ(3SH2)→スタブルカルチ(MSC6PYQLK)
→バーチカルハロー(DC230PK)→耕耘同時畝立播種



播種後12日

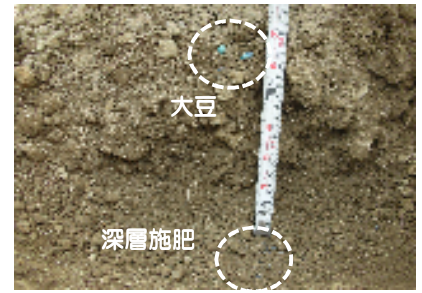
簡易土づくり区 (作土深40cm)



パラソイラ(EPS400-K)→耕耘同時畝立播種

肥料区

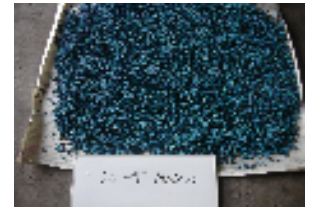
北陸研究センター様よりお借りした機械にて子実肥大と増収を狙い石灰窒素の深層施肥を行いました。播種と同時に種子より20cm程度の土中に石灰窒素を施用しました。これにより、大豆の生育が良くなるので、莢数や粒数が増えます。また、根粒の働きが弱まる生育後半に、根粒の活動を阻害することなく、深層施肥の根を通じて効率的に窒素供給が出来ます。落葉が若干遅くなりますが葉の寿命が延び生育最終段階において光合成が長期に持続されることにより百粒重も増え増収に繋がります。



大豆と深層施肥の位置

農薬区

クルーザーMAXXの効果を見てもらうのは勿論ですが、(株)新潟農商独自の試みとして、病害虫防除を1回多くして生育後半の光合成を長期持続させ百粒重を増やし増収に繋がる実証をしています。農薬を増やすことによりコストは掛かりますが虫が及ぼす害と収量の関係を明らかにすることにより害虫発生が多発したときの対処法の確立をしたいと思えます。



●上越地区にて枝豆移植実演会が開催されました。

連休明けの5月7日、上越地区にてJAえちご上越様との共同企画『枝豆移植実演会』が行われました。お客様・関係者を含め56名の方々にご参加頂きました。大変ありがとうございました。多数のメーカー様よりご協力頂き、移植実演だけでなく、土づくりから移植、調整までの機械を併せて展示させて頂きました。

昨年発売したベジライダーは大変注目を浴びておりました。実際にお客様にも試乗して頂き、「簡単！楽しい！」という声が聞こえてきました。

私も移植作業を体験してみましたが、作業自体は苗を取ってポットの中に入れていく単純作業です。ポットの回転に追いつくことに苦労する場面もありました。

今回の実演会でご興味のある機械がありましたら、お気軽にお近くのクボタ販売店または新潟クボタの営業所までお問い合わせ下さい。



JB131によるマルチ張り作業の様子



枝豆収穫機マメーダ説明の様子



ベジライダーによる移植実演

●狭畦栽培実証圃において播種作業が行われました。

昨年に引き続き、今年も白根地区にて狭畦栽培実証圃が設けられ、5月28日に播種作業が行われました。

播種後21日目の圃場を視察してきました。狭畦区と慣行区では根量に大きな差が見受けられました。今後も生育を追って、皆さんにどんどん情報をお伝えしていきたいと思えますので、是非ご期待下さい！



左：狭畦 右：慣行

